

現地適応化架線研修

令和6年10月22日、大田市三瓶町において現地適応化架線研修を開催しました。

この研修は、架線集材において現場に合わせた工夫ができるよう、小面積皆伐地での効率的かつ、大径木の集材も可能である索張方式としてスラックライン式による架線集材を体験するというを目的として研修会を開催しました。

当日は、あいにくの雨でしたが、管内の林業事業体職員を中心に20名以上の参加がありました。

研修会では、スラックライン式の特徴について簡単に説明を行い、その後、前農林大学校准教授の大塚氏の解説を受けながら、スイングヤーダを用いてスラックライン式での集材を行いました。実際に集材を行う様子を見ていただいたことで、普段用いている集材方式との違いや、スラックライン式のメリット・デメリットがより身近に感じられたのではないかと思います。

県内の架線集材の現状としては、ランニングスカイライン方式や単線地曳での集材がほとんどなので、今回の研修会をきっかけとして、それぞれの現場にあった集材方法を検討していただければ幸いです。



研修会当日の様子